

3. 地域・行政・学校・NPO との連携・協働による次世代育成事業

本学の現代 GP の取り組みにおける種々の次世代育成事業は現代 GP 委員会次世代育成部門が担当した。次世代育成とは、単に育児支援にとどまらず、人々が、命の尊さに気づき、自分や他の人を大切に思う気持ちを育み、それらを世代や立場を超えて伝え合う実践を意味している。本取り組みにおける次世代育成事業の目的は、地域住民、本学学生・教員、そして次世代育成を担う、保健師、行政機関職員、小学校・中学校・高校の教員など、本事業にかかわるすべての人々の相互作用の成果として、地域全体の次世代育成能力が相互に向上することにある。本学の次世代育成事業に関する 4 者の協働と融合の関係を以下の図 II-3-1 に示した。

本学が地域・行政・学校・NPO などと連携・協働して行っている次世代育成事業は多様であり、具体的には、「命の感動体験」「思春期ピアカウンセリング」「命の出前講座」「プレパパ・プレママセミナー」「竹の台ふれあいまつり」などを行っている。以下に各事業の実績と成果について述べる。

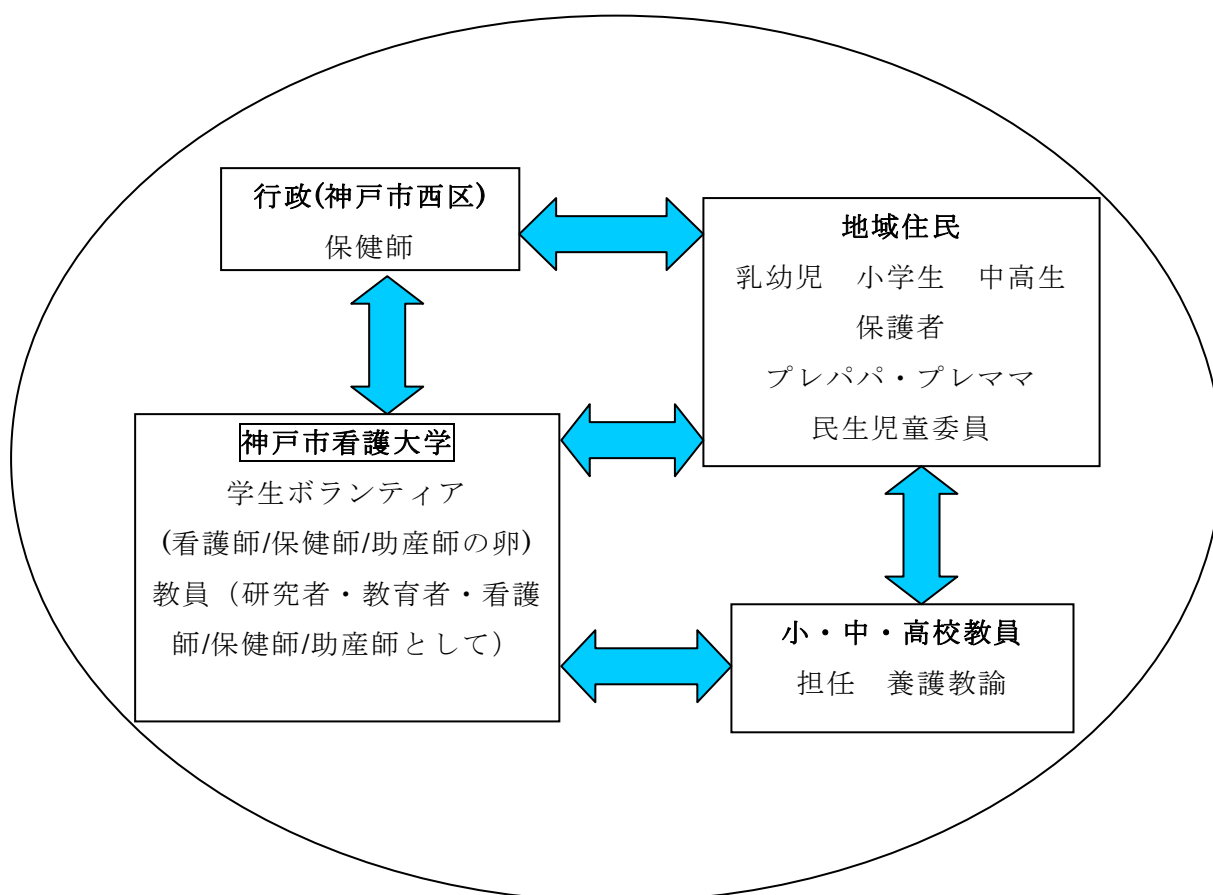


図 II-3-1 本学次世代育成事業に関する 4 者の協働と融合の関係

1) 次世代育成各事業の実績と成果

(1) 「命の感動体験」事業

「命の感動体験」は、西区子育て支援係と、各地域の民生児童委員協議会の民生児童委員、小学校と本学とが協働し、地域の小学5～6年生を対象に、乳幼児親子との自然で日常的なふれあい機会を設ける事業である。本事業は、本学の現代GPの取り組みが開始される以前の平成15年度より、西区の長坂地区において関係機関が協議し、萌芽的实践として始まった。その実践活動が評価され、「命の感動体験」は、現在では神戸市全域で実施されるようになってきている。「命の感動体験」が開始されて、すでに6年の活動実績があることから、当初、幼児として「命の感動体験」に参加した子どもたちが、今では小学校高学年となって再び「命の感動体験」に参加し、新たな世代である乳幼児とふれあうような循環も実現している。次世代育成事業の継続が活かされている。

各地域によって異なる実情をもち、地域の民生児童委員協議会は、きめ細やかにその実情を把握している。こうしたマンパワーを発揮・養成できる場が「命の感動体験」である。「命の感動体験」の事前打ち合わせを、全地域で数回ずつ行っている他、実施前後に、子育て広場などの育児サークル活動にあわせた育児講演会を実施し、こうした機会に「命の感動体験」に参加してくれる乳幼児親子を募り、本事業が成り立っている。「命の感動体験」を通じて、地域住民、行政機関職員、小学校の教員、そして本学学生・教員の4者が、地域で連携する機会が確実に増えている。「命の感動体験」事業は単独に存在しているのではなく、後述する「命の出前講座」などの事業とも連動しながら、広く次世代育成事業の一環で、その機能を発揮する状況が、西区においてつくり上げられつつある。

「命の感動体験」において、本学の学生や教員は、ふれあいの時間にファシリテーターとして関わる他にも、各地域の要望に応じて、教員による子育てワンポイント・アドバイスと題したミニ講演を行った。ファシリテーターを担うにあたって、本学学生・教員、民生児童委員、保健師らは共に、児童の自然で主体的な交流を見守る立場であることを確認した。事業開始当初に皆で話し合って作成した「命の感動体験」における「ファシリテーターの役割」は、新たに本事業を開始する地域の関係者へと受け継がれている。その『「命の感動体験」ファシリテーター（進行役）の役割』の内容は次頁の資料Ⅱ-3-1に示した。

「命の感動体験」における交流は、児童一人ひとり異なるペースで行われた。各自が自分のペースで自然と乳幼児を知り、思いやる行動は、育児の原型にもつながる。乳幼児の親にとっては、「命の感動体験」は社会参加の機会でもあり、自らの育児や子との接し方にゆとりをもつことにもつながっていった。また、児童の保護者がボランティアとしてかわるケースもあった。わが子が乳幼児とふれあう姿を見守りながら、子育ての先輩として、若い保護者に対して、妊娠・出産・子育てを振り返って話をし、育児の楽しさや達成感を伝え合っていた。

「命の感動体験」事業は、平成18年度は7回、平成19年度は5回、平成20年度は12回行ったが、各年度の実績は、表Ⅱ-3-1、表Ⅱ-3-2、表Ⅱ-3-3にそれぞれ示したとおりである。

命の感動体験事業におけるファシリテーター（進行役）の役割

① 自己紹介

（乳幼児のお母さんからは、母と児の氏名・年齢・最近児ができるようになった事や最近の様子について等。児童に対しては、氏名と兄弟姉妹の有無、を言ってもらおう。その他に伝えたい事があれば、何でも言ってもらって良い。）

② 乳幼児のお母さんから、妊娠・出産・子育ての体験を語って貰う。

例・子育ての中で楽しい事や喜びを感じる事

- ・赤ちゃんが生まれた時の喜びや感動
- ・妊娠中の変りや喜び

③ 児童から、乳幼児のお母さんに聞きたいことがあれば質問して貰う。

④ 質問がない時は、今回の授業に参加する前に自宅で、おうちの人と何かお話ししましたか？ 例えば、児童が赤ちゃんだった時の事とか話しましたか？と聞いてみる。

⑤ 乳幼児のお母さんに質問する。

- ・子どもさんが一番好きな遊びは何ですか？
- ・何をしてあげたらよろこびますか？
- ・赤ちゃんがぐずった時に、どうしてあげたら泣きやみますか？
- ・大きくなったらどんな人になって貰いたいですか？

⑥ 児童に質問する。

- ・赤ちゃん人形で抱っこ練習をしてから、実際に本物の赤ちゃんにあったけれど、どうですか？
- ・赤ちゃんのどんなところがかわいいですか？

*途中で乳幼児が泣いたときは、「人見知りがあるのかな？」「やっぱり、お母さんがいいんだね」などの声をかける。ぐずってきた時は、「眠たいのかな」「お腹がすいたのかな」「オムツが気持ち悪いのかな」など、児童が原因を考えるように誘導する。

（交流会が終わる頃に）

児童に対して、後で感想文も書いて貰うみたいだけど、おうちに帰ってから家の人にも今日の事について話してあげて下さい、と話す。

表Ⅱ-3-1 平成 18 年度「命の感動体験」活動実績

日時	場所	対象者	地域ボランティア	教員	学生
10月5日(木) 9:00~11:30	神戸市立 小寺小学校	児童 38 人、教員 2 人、親子 23 組	根っこの会・民生児童委員協議会 14 人 西区子育て支援係 3 人	2 人 事務 1 人	7 人
10月11日(水) 9:00~11:30	神戸市立 月が丘小学校	児童 25 人、教員 3 人、親子 12 組 (乳幼児 14 人)	民生児童委員協議会 7 人 西区子育て支援係 3 人	2 人	—
10月13日(金) 9:00~11:30	長坂学童保 育コーナー	児童 40 人教員 2 人、親子 13 組(乳 幼児 16 人)	民生児童委員協議会 14 人 西区子育て支援係 2 人	2 人	—
10月20日(金) 9:00~11:30	神戸市立 桜が丘小学 校	児童 30 人、教員 2 人、親子 27 組 (乳幼児 31 人)	民生児童委員協議会 9 人 西区子育て支援係 3 人	2 人	—
10月26日(木) 9:00~11:30	神戸市立 小寺小学校	児童 37 人、教員 2 人、親子 39 組 (乳幼児 39 人)	根っこの会・民生児童委員協議会 17 人 西区子育て支援係 3 人	1 人	7 人
10月27日(金) 9:00~11:30	神戸市立 桜が丘小学 校	児童 30 人、教員 2 人、親子 23 組 (乳幼児 28 人)	民生児童委員協議会 9 人 西区子育て支援係 3 人	1 人	—
11月8日(水) 9:30~11:30	長坂学童保 育コーナー	児童 40 人、教員 2 人、親子 14 組 (乳幼児 18 人)	民生児童委員協議会 16 人 西区子育て支援係 2 人 保育士 1 人	3 人	2 人

表Ⅱ-3-2 平成 19 年度「命の感動体験」活動実績

日時	場所	対象者	地域ボランティア	教員	学生
10月16日(火) 9:00~11:30	神戸市立 小寺小学校	児童 33 人、教員 2 人、親子 35 組	根っこの会・民生児童委員協議会 16 人 シルバー人材センター 2 人 西区子育て支援係 3 人	1 人	12 人
10月17日(水) 9:00~11:30	神戸市立 小寺小学校	児童 32 人、教員 2 人、親子 30 組	根っこの会・民生児童委員協議会 11 人 シルバー人材センター 2 人 西区子育て支援係 2 人	1 人	—
11月9日(金) 9:00~11:30	神戸市立 櫛谷小学校	児童 18 人、教員 3 人、親子 13 組	民生児童委員協議会 8 人 西区子育て支援係 3 人	1 人	3 人
3月3日(月) 9:00~11:30	神戸市立玉津 第一小学校	児童 62 人、教員 2 人、親子 40 組	民生児童委員協議会 5 人 NPO「輝きたまつ」6 人 児童館職員 2 人 西区子育て支援係 2 人	1 人	1 人
3月10日(月) 9:00~11:30	神戸市立玉津 第一小学校	児童 62 人、教員 3 人、親子: 37 組	民生児童委員協議会 5 人 NPO「輝きたまつ」6 人 児童館職員 2 人 西区子育て支援係 3 人	2 人	2 人

表Ⅱ-3-3 平成20年度「命の感動体験」活動実績

日時	場所	対象者	地域ボランティア	教員	学生
6月10日(火) 9:00~11:30	神戸市立 井吹西小学校	児童36人、教員 1人、親子14組	民生児童委員協議会14人 西区子育て支援係3人	2人	3人
6月16日(月) 9:00~11:30	神戸市立 井吹西小学校	児童70人、教員 2人、親子34組	民生児童委員協議会14人 西区子育て支援係3人	2人	1人
6月30日(月) 9:00~11:30	神戸市立 井吹西小学校	児童70人、教員 2人、親子36組	民生児童委員協議会14人 西区子育て支援係2人	2人	—
7月4日(金) 9:00~11:30	神戸市立 井吹西小学校	児童68人、教員 3人、親子37組	民生児童委員協議会14人 西区子育て支援係2人	2人	—
9月11日(木) 9:00~12:00	長坂学童保育 コーナー	児童34人、教員 1人、親子24組	民生児童委員協議会12人 西区子育て支援係3人	3人	—
10月3日(金) 9:15~12:00	神戸市立 櫛谷小学校	児童13人、教員 2人、親子6組 (乳幼児8人)	民生児童委員協議会8人 西区子育て支援係2人 児童館職員1人	1人	—
10月3日(金) 9:00~11:30	長坂学童保育 コーナー	児童32人、教員 1人、親子19組	民生児童委員協議会11人 西区子育て支援係2人	1人	—
10月14日(火) 9:00~11:30	神戸市立 月ヶ丘小学校	児童37人、教員 2人、親子20組	民生児童委員協議会10人 西区子育て支援係3人	2人	2人
10月15日(水) 9:00~11:30	神戸市立 小寺小学校	児童36人、教員 1人、親子23組	民生児童委員協議会7人 西区子育て支援係2人	2人	4人
10月16日(木) 9:15~12:00	長坂学童保育 コーナー	児童35人、親子 27組(乳幼児30人)	民生児童委員協議会16人 西区子育て支援係1人	2人	2人
10月16日(木) 9:15~12:00	神戸市立 小寺小学校	児童35人、教員 2人、親子21組 (乳幼児25人)	民生児童委員協議会10人 西区子育て支援係3人 児童保護者15人	2人	5人
10月24日(金) 9:00~12:00	長坂学童保育 コーナー	児童35人、教員 1人、親子19組	民生児童委員協議会16人 西区子育て支援係2人	2人	3人
11月19日(水) 9:15~12:00	神出児童館	児童25人、教員 2人、親子24組 (乳幼児27人)	民生児童委員協議会8人 児童館職員4人 西区子育て支援係3人	1人	—
11月20日(木) 9:00~12:00	長坂学童保育 コーナー	児童42人、教員 2人、親子19組	民生児童委員協議会および 長坂子育て協力隊16人 西区子育て支援係2人	1人	—
11月25日(火) 9:15~12:00	神出児童館	児童29人、教員 2人、親子23組 (乳幼児26人)	民生児童委員協議会10人 児童館職員4人 西区子育て支援係3人	1人	—

① 「命の感動体験」に参加した「小学生(児童)」の主な様子と感想

各グループの児童とも、最初はファシリテーターや母親の促しに導かれながら、乳幼児に話しかけたり働きかけていた。3代同居の家庭が多い地区だったので、参加者や児童も知り合いが何組もあり、関わりやすかったようである。

児童は、乳児を抱いたりあやしたり、児童館の遊具で一緒に遊んだり、ボールを転がしたりして遊んでいた。じっとして身体的に直接ふれあっているよりも、身体を一緒に動かしたり、道具を用いて遊ぶ場面が多かった。時間が経つと児童は、乳幼児に話しかけたり、風船やボールを使って遊んでいた。乳幼児の成長にあわせ、風船の大きさを工夫したり、

ボールの勢いを調整していた。保護者の話を聞き、質問をする児童もいた。母親から離れたがらない乳幼児のそばにいる児童は、どのように接したらよいのか、初めは戸惑っているようであった。適宜、民生児童委員や児童館の職員が乳幼児の関心をひき、児童との橋渡しをしたり、他の乳児を抱ける機会を作っていた。乳児を抱き、児童は「赤ちゃんの手、大丈夫?」「赤ちゃんが少し下にずれてきた」などと気遣いながら抱いていた。体験の途中から、他に関心が向いていた児童がいたが、乳幼児に接しているときには表情が柔らかくなり、安心する場面もあった。こんなにも変わるものかと、新鮮な驚きがあった。

参加した児童の感想は、後日に児童館にて、乳幼児の親が見ることができるようにした。児童の感想から抜粋したものを以下に示した。

【小学生（児童）の感想から（抜粋）】

◆最初は少しかわいいかなあとっていて、赤ちゃんと会くと、とってもかわいくて、足や手などがプニョプニョしていて、とっても気持ち良かったです。だっこしてみると、かるそうだけどけっこう重くて、びっくりしました。はだがサラサラしていい気分になりました。

◆赤ちゃんは泣くことが仕事だからしょうがないけれど、前から、ちっちゃい子は苦手でした。だけど、今日赤ちゃんとふれあったおかげで、泣いても『どうしたのかな?』とか『かわいいな』と思えるようになりました。お母さんのおなかから自分がぐうぜん産まれてきたんだと考えると、産まれてきて良かったなと思いました。

② 「命の感動体験」に参加した「乳幼児とその親」の主な様子

児童がお礼の歌を歌う場面では、乳幼児は引き込まれて聞き入っていた。また、上の子を幼稚園に迎えに行く時間が重なり、ゆっくりする間もなく帰る親もいたが、自由な出入りができる雰囲気よかった。初めて地域の集団に参加した母児も多かったが、この事業への参加が、その後の外出や仲間づくりのきっかけになっていた。

児童が帰る姿に泣きだす乳児もあり、短時間でもうちとけた関係ができていた。眠くなってぐずる乳児がいる場合もあったが、民生児童委員がうまくあやしていた。

③ 「命の感動体験」に参加した「民生児童委員」の主な様子

民生児童委員は、最初は、かなり緊張していたが、短い時間でリラックスした雰囲気をつくるなどの役割を果たしていた。特に児童に対しては、祖母的なかわり方で、自然に育児の大変さと楽しさを伝えており、児童も素直に聞き入っていた。

子育て中の母親もたくさんボランティアとして参加しており、民生児童委員は、子育ての先輩として、乳幼児の母親や児童に対しても、自信をもって接しているように見えた。それが適度な見守りやファシリテートとなり、よい雰囲気をつくり出していた。

民生児童委員は、児童や乳幼児の家庭の状況をよく把握しており、きめ細やかな対応で、積極的に運営されていたので、「命の感動体験」がスムーズに進行した。

④ 「命の感動体験」に参加した「子育て支援係職員」の主な様子と感想

西区保健福祉部子育て支援係の職員も、打ち合わせから当日の応援まで、丁寧にフォローしていた。

◆小学校教員、民生児童委員、西区子育て支援係職員、看護大学学生・教員の4者が連携し、さらに児童と乳幼児親子を含めたマンパワーを結集できたのがよかった。

⑤ 「命の感動体験」に参加した「小学校教員」の主な感想

◆児童が普段、見られないような柔らかな表情をしていた。

◆「命の感動体験」の前後に、家庭や学級で、自分たちの生まれたときのことを話題にしたり、親から話を聞いたり、命の尊さや、生まれて今までに様々な人に大切に育てられてきたということ、実感を伴って理解する機会がもてた。

(2) 思春期ピアカウンセリング

ピアカウンセリングとは、性や生き方について、思春期前後の人や若者たちがピア（＝仲間）として同じ視点で話し合い、コミュニケーションスキルを主体的に獲得していく過程を助ける活動の一つである。本学学生は、ピアカウンセラー（通称ピアっ子）としての演習を学内で行った後、学外の学校へ出向き、ピアカウンセリングのデモンストレーションやピアエデュケーターの教育を行ったり、実際に生徒（中学生・高校生）らを対象にピアカウンセリングを行った。本学の教員は、これらの学生活動を間接的にサポートした。

「思春期ピアカウンセリング」の主な内容は、性感染症予防に関する知識の提供、デートDV（親しい人から受ける暴力）や恋人間のDVに関する話題提供やロールプレイ、コンドームスキルや、恋愛や性に関するコミュニケーションスキルの実際などである。それらの内容について、本学学生は、ピアっ子として、対象生徒らと共に学び、共に考えながら活動を展開した。その際、コミュニケーションのルールやラポール（相互に信頼関係が成立している状態）、人生における現在の位置、性の段階的行動の実際など、楽しんで学ぶことができるよう内容や運営方法・進行方法を、準備・工夫して実施した。

本事業は、NPO法人ひょうごピアカウンセリング研究会との連携で行っており、本学以外でピアカウンセリングの活動を行っている学生とも交流した。また、学内においても、異学年交流を行い、卒業生や上級生が、後輩にピアカウンセリングのスキルを伝えた。学年を超えて学生同士が話し合う、貴重な交流の機会でもあった。

「思春期ピアカウンセリング」に参加した生徒（高校生）からは、「人生を考えることができた」「自分のことを振り返ることができた」「自分には大切なものがいっぱいあることに気づいた」などの感想が聞かれ、ピアカウンセリングが、生と性を同世代と共に主体的・自律的に考える機会になったことがわかる。本学学生にとっては、性感染症の知識や集団指導の実践能力の向上、さらには看護職に就く者としての自覚が促された。

平成19年度および平成20年度における「思春期ピアカウンセリング」の活動実績は、表Ⅱ-3-4、表Ⅱ-3-5に示したが、平成19年度は49回、平成20年度（11月まで）は13回と活発に活動し、対象者は延べ4000人以上に達した。

表Ⅱ-3-4 平成19年度「思春期ピアカウンセリング」の活動実績

実施日	実施先	対象数	学生数	内容
6月9日	思春期ピアカウンセラー養成講座	43	7	デモンストレーション
6月10日	思春期ピアカウンセラー養成講座	43	7	デモンストレーション
6月16日	思春期ピアカウンセラー養成講座	42	7	デモンストレーション
6月17日	思春期ピアカウンセラー養成講座	42	7	デモンストレーション
6月18日	思春期ピアカウンセリング関係者研修会	40	2	デモンストレーション
7月18日	兵庫県立宝塚東高等学校	195		ピアエデュケーション
9月5日	芦屋大学付属高等学校	200	12	ピアエデュケーション
9月5日	甲南女子中学校	82	10	ピアエデュケーション
9月7日	兵庫県立龍野実業高等学校商業科	38	5	ピアカウンセリング
9月10日	神戸市立神戸西高等学校(4回)	延63	延17	ピアカウンセリング
9月12日	神戸市立神戸西高等学校(2回)	延24	延9	ピアカウンセリング
9月13日	神戸市立神戸西高等学校(2回)	延37	延8	ピアカウンセリング
9月14日	神戸市立神戸西高等学校(3回)	延50	延12	ピアカウンセリング
9月19日	神戸市立神戸西高等学校	11	5	ピアカウンセリング
9月27日	兵庫県立新宮高等学校看護専攻科	40	5	ピアカウンセリング
10月23日	順心会看護医療大学	10	7	ピアカウンセリング
11月3日	神戸市看護大学	50	5	ピアカウンセリング
11月28日	兵庫県立錦城高等学校(定時制)	29	4	ピアカウンセリング
12月17日	兵庫県立小野工業高等学校(定時制) (4回)	延112	延12	ピアカウンセリング
2月8日	兵庫県立長田高等学校	320	11	ピアエデュケーション
2月9日	思春期ピアカウンセラー養成講座	33	6	デモンストレーション
2月10日	思春期ピアカウンセラー養成講座	33	4	デモンストレーション
2月14日	神戸市立鷹匠中学校(6回)	延225	延18	ピアカウンセリング
2月15日	兵庫県立松陽高等学校	240	8	ピアエデュケーション
3月4日	神戸市立鷹匠中学校(6回)	延198	延60	ピアカウンセリング
3月7日	兵庫県立祥雲館高等学校	200	7	ピアエデュケーション
3月7日	兵庫県立福崎高等学校	40	6	ピアカウンセリング
3月12日	兵庫県立西宮高等学校	800	9	ピアエデュケーション
3月18日	淡路市立東浦中学校	69	7	ピアカウンセリング

表Ⅱ-3-5 平成20年度(11月まで)「思春期ピアカウンセリング」の活動実績

実施日	実施先	対象数	学生数	内容
7月1日	兵庫県立猪名川高等学校	18	7	ピアエデュケーション
9月4日	兵庫県立社高等学校	38	11	ピアエデュケーション
9月8日	神戸市立神戸西高校(2回)	延200	延8	ピアエデュケーション
9月16日	神戸市立神戸西高校	36	5	ピアエデュケーション
9月17日	神戸市立神戸西高校(3回)	延52	延12	ピアエデュケーション
9月18日	神戸市立神戸西高校(2回)	延36	延8	ピアエデュケーション
9月22日	神戸市立神戸西高校	16	4	ピアエデュケーション
10月25日	関西看護医療大学(中学生)	10	4	ピアエデュケーション
11月19日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校(高2)	32	4	ピアエデュケーション

(3) 命の出前講座

「命の出前講座」は、地域の小学校などで行う性と生の教育である。本学の教員が、小学5年生を対象に、第2次性徴についての参加型授業を行うものと、本学の「思春期健康教育論（選択科目）」を履修した学生が、小学4年生を対象に、思春期の健康教育を行うものがある。

本学学生が行う「命の出前講座」では、4年生児童にとって身近な女性の先輩である学生が、ピア（仲間）的な視点で、具体的な月経の対処法なども内容に含んだ月経教育を実施した。児童にとって受け入れやすく参加しやすい内容になるよう工夫して実施した。「命の出前講座」に参加した児童（女児）からは、「体の中には、いろいろ大切なものがあるのだなと思いながら聞いていました」「今日初めて、子宮からはがれた内まくと血液がいっしょに体の外にでるのを知りました」「ナプキンの実験で、とても吸収してくれるのだなと思いました。あとかたづけの時、とても上手だねと言われたのがとてもうれしかったです」などの感想や、積極的に質問も寄せられた。本学学生にとっては、自分たちの助産学に関する知識・技術が、思春期の児童に役立つことを実感し、さらに助産学を学び続ける楽しさや動機付けを高める機会となった。一方、小学校の教員は、「命の出前講座」において、月経に関する知識を再確認すると共に、児童と学生との相互作用を見守っていた。また、性に関する専門職でもある看護職者のマンパワーを実感し、今後の更なる連携について考えるきっかけにもなった。

本学教員による「命の出前講座」では、当該小学校の養護教諭と連携し、小学5年生を対象とした第2次性徴についての参加型授業を行った。授業に際し、日頃の児童の課題について養護教諭と話し合い、そのことも念頭に置いて授業内容を考えた。これにより、養護教諭にとっては最新の性科学の知識やトピックを知ることができ、本学教員にとっては、地域の小学生の現状を知ることができ、相互に得るものがあった。小学校において、性教育は、校内のマンパワーだけでカバーすることが難しく感じられる分野であったが、本学と連携することで、指導のポイントが明確になったとのことであった。参加した児童からは、「通常の性に関する授業に加えて、特別講義の形で、より丁寧に第2次性徴について知ることができ、心身の不安が少なくなった」「面白かった」などの感想が寄せられた。



「命の出前講座」授業風景（初経の仕組みについて）

平成 18 年度から平成 20 年度における「命の出前講座」の活動実績は表Ⅱ-3-6 に示したとおりである。

表Ⅱ-3-6 「命の出前講座」の活動実績（平成 18～20 年度）

日時	場所	対者	参加者	内容
平成 18 年 11 月 30 日(木) 9:00～11:30	神戸市立小寺小学校	5 年生 68 人	担任教員 2 人 養護教諭 1 人 本学教員 2 人 事務員 1 人	自己紹介 思春期の心身の変化 第 2 次性徴の仕組み
平成 19 年 1 月 18 日(木) 14:30～15:20	神戸市立小寺小学校	4 年生 女兒 37 人	担任教員 2 人 養護教諭 1 人 本学教員 2 人 事務員 1 人 学生 10 人	自己紹介 初経の仕組み 月経周期について 月経の手当
平成 19 年 10 月 11 日(木) 9:00～11:30	神戸市立小寺小学校	5 年生 68 人	担任教員 2 人 養護教諭 1 人 本学教員 2 人 学生 2 人	自己紹介 思春期の心身の変化 第 2 次性徴の仕組み
平成 20 年 1 月 24 日(木) 14:30～15:20	神戸市立小寺小学校	4 年生 女兒 37 人	担任教員 2 人 養護教諭 1 人 本学教員 1 人 事務員 1 人 学生 13 人	自己紹介 初経の仕組み 月経周期について 月経の手当
平成 20 年 10 月 23 日(木) 9:00～11:30	神戸市立小寺小学校	5 年生 68 人	担任教員 2 人 養護教諭 1 人 本学教員 1 人	自己紹介 思春期の心身の変化 第 2 次性徴の仕組み
平成 21 年 1 月 20 日(火) 9:15～11:15	神戸市立 竹の台小学校	4 年生 女兒 32 人	担任教員 1 人 養護教諭 1 人 本学教員 2 人 学生 10 人	自己紹介 初経の仕組み 月経周期について 月経の手当
平成 21 年 1 月 20 日(火) 14:30～15:20	神戸市立小寺小学校	4 年生 女兒 37 人	担任教員 1 人 養護教諭 1 人 本学教員 1 人 学生 10 人	自己紹介 初経の仕組み 月経周期について 月経の手当

(4) プレパパ・プレママセミナー

「プレパパ・プレママセミナー」は、平成 18 年度から、神戸市西区との協働で行っている事業であり、本学学生が主体となって、妊婦とそのパートナーを対象に、妊娠、出産、育児に関するセミナーを行っている。毎年、5 月、9 月、1 月の年 3 日、午前と午後に 1 回ずつ、年間で計 6 回開催した。そのうち、本学の実習室で実施した平成 19 年 9 月と平成 20 年 1 月の 2 回の「プレパパ・プレママセミナー」については、広報などの準備作業と参加者の名簿管理などを



「プレパパ・プレママセミナー」の様子
(マッサージ)

除く、企画・運営の全てを、本学学生が主体的に行った。対象は西区在住の妊婦 15 人とそのパートナーであった。事前準備として、学生は、保健師や区の委託を受けた助産師・管理栄養士らの行う「プレパパ・プレママセミナー」にボランティアとして参加しながら学び、その後 3 ヶ月をかけて企画を練って、本番に望んだ。学生は、進行やグループワーク時のファシリテーターを担い、妊婦とそのパートナーが、地域で子育ての仲間づくりができるようなきっかけをつくることや、妊娠期や育児期の栄養や母乳哺育の知識をわかりやすく、ライフサイクル全体のなかでとらえながら伝えた。また、パートナーによる妊婦体験や、スリングの使用法、沐浴の実技演習など、参加体験型のセミナーを行った。

また、「プレパパ・プレママセミナー」の参加者を対象に、学生が「パパママ応援隊」となって、その後の育児などの相談を受け、細やかに対応をする活動も行った。これらの活動において、必要があれば、対象者の了解のもと、担当保健師につなぐことも行った。これらのことは、地域での実践能力を向上させることに役立った。

平成 18 年度から平成 20 年度における「プレパパ・プレママセミナー」の活動実績は表 II-3-7 に示したとおりである。

表 II-3-7 「プレパパ・プレママセミナー」の活動実績（平成 18～20 年度）

日時	場所	参加者	内容
平成 19 年 1 月 27 日(土) 10 時～12 時、 13 時～15 時	本学 実習室 I・II	妊婦とパートナー(午前 14 組(子ども 1 人)、午後 13 組)、教員 5 人、西区子育て支援係 3 人、助産学生 13 人、学生ボランティア 3 人	自己紹介、エンカウンター、栄養の話、母乳の話、沐浴演習、マッサージ、妊婦の生活
平成 19 年 9 月 29 日(土) 10 時～12 時、 13 時～15 時	本学 実習室 I・II	妊婦とパートナー(午前 10 組、午後 12 組)、教員 6 人、西区子育て支援係 3 人、助産学生 14 人、卒業生ボランティア 2 人	自己紹介、エンカウンター、栄養の話、母乳の話、沐浴演習、マッサージ、妊婦の生活
平成 20 年 1 月 26 日(土) 10 時～12 時、 13 時～15 時	本学 実習室 I・II	妊婦とパートナー(午前 10 組、午後 14 組)、教員 4 人、西区子育て支援係 2 人、助産学生 14 人、卒業生ボランティア 1 人	自己紹介、エンカウンター、栄養の話、母乳の話、沐浴演習、マッサージ、妊婦の生活
平成 20 年 7 月 26 日(土) 10 時～12 時、 13 時～15 時	本学 実習室 I・II	妊婦とパートナー(午前 14 組、午後 16 組)、教員 3 人、西区子育て支援係 2 人、助産学生 15 人、学生ボランティア 1 人	自己紹介、エンカウンター、栄養の話、母乳の話、沐浴演習、マッサージ、妊婦の生活
平成 21 年 1 月 24 日(土) 10 時～12 時、 13 時～15 時	本学 実習室 I・II	妊婦とパートナー(午前 14 組、午後 14 組)、教員 3 人、助産学生 15 人、学生ボランティア 1 人、西区子育て支援係 2 人、兵庫多胎ネット 2 人	自己紹介、エンカウンター、栄養の話、母乳の話、沐浴演習、マッサージ、妊婦の生活

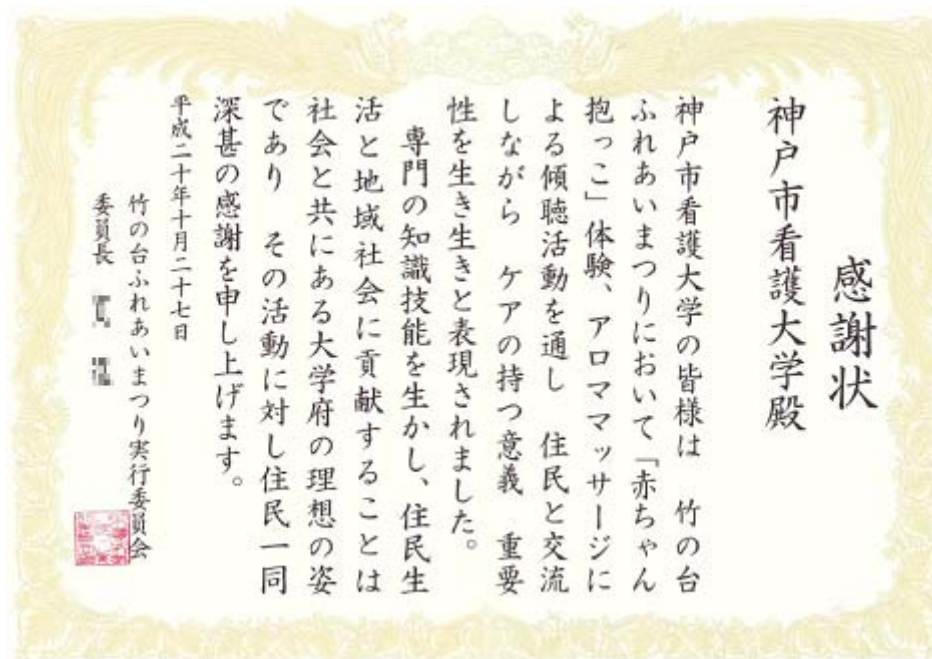
(5) 竹の台ふれあいまつり

神戸市西区竹の台地区で行われた町づくり協議会主催のふれあいまつりに、ボランティアとして学生が参加した。18 年度と 19 年度は、本学学生が「赤ちゃん抱っこ体験」コーナーを設け、地域の人々に赤ちゃん人形を抱っこしてもらいながら、そのふれあいをきっかけに、人々の輪の中に入って、育児体験について話を聞いたり、気軽に育児相談を行った。

平成 20 年度は、本学学生が「赤ちゃん抱っこ体験」と「ハンドマッサージ」コーナーの 2ヶ所を担った。「ハンドマッサージ」は、当初は高齢者を対象にしていたが、子どもや子育て世代の住民も訪れ、1日延べ70人の住民が体験した。こうした活動を通じて、地域住民と協働しながら、地域の人々の健康ニーズに応えるという、生きた健康支援活動を実施した。

平成 19 年度と 20 年度には、本学学生のこうした活動に対して、竹の台ふれあいまつり実行委員会から、以下のような感謝状（資料Ⅱ-3-1）が送られた。

資料Ⅱ-3-1 地域団体からの感謝状



2) 次世代育成事業の成果をふまえて

本現代 GP の取り組みにおける、次世代育成事業の目的は、地域住民、本学学生・教員、そして次世代育成を担う様々な職種や立場の人々の相互作用の成果として、地域全体の次世代育成能力が相互に向上することにあった。その目的を達成するために、単に育児支援にとどまらず、人々が、命の尊さに気づき、自分や他の人を大切に思う気持ちを育み、それらを世代や立場を超えて伝え合う事業を展開した。「命の感動体験」「思春期ピアカウンセリング」の事業は、本学の現代 GP の取り組みに先駆けて、平成 16 年から進めていたが、先述したように、現代 GP の取り組みとして事業を展開する中で、さらに発展していった。また「命の出前講座」「プレパパ・プレママセミナー」「竹の台ふれあいまつり」の事業は、ほぼ現代 GP の取り組み開始と同時に、平成 18 年から開始し、先述したような多様な成果に結びついた。

地域・行政・学校・NPO などとの連携・協働による、これらの次世代育成に関する多様な活動に、本学学生が主体的に参加することにより、次世代育成のための健康ニーズを適

切に把握し、対象者が主体的に健康づくりに取り組んでいくことを支援するための実践能力が大いに向上した。さらには、そのような次世代育成に関する実践が、世代や立場を超えて広がっていく仕組みづくりにも寄与できた。

本次世代育成事業の成果は、地域に生活する妊婦とそのパートナー、民生児童委員、乳幼児とその親などの地域住民と学校の児童・生徒を主体として、行政機関の職員・保健師、小学校・中学校・高校の養護教諭・教員、そして本学の学生・教員が、各々もてる知識や技能を發揮しながら、各々の役割を果たし、連携・協働したことの集大成である。

今回、現代 GP の取り組みにおける次世代育成事業には、延べ7千人を超える大勢の参加があった。比較的広い地域で活動した「思春期ピアカウンセリング」を除いても、神戸市西区内において3千人以上の参加があった。これは西区人口のおよそ80分の1にあたる数である。また、事業に参加した本学学生の延べ人数を学生総数で割ると、ほぼ3人に1人が参加したことになる。このように大勢の人の手によって、安全に、そして楽しく、成功裡に事業が運営・遂行されたことは大きな成果であり、本学においても、地域においても、今後、事業を進める上での自信につながった。

平成15年7月に少子化社会対策基本法および次世代育成支援対策推進法が制定され、それ以降、各自治体では、具体的な次世代育成施策が模索され、展開されてきた。神戸市においても、神戸市次世代育成支援対策推進行動計画「神戸っ子すこやかプラン21」（平成17～22年度実施）に則り、全域で、次世代育成事業を模索・展開するようになった。こうした行政の動きにも先駆けつつ、歩を共にし、本学現代 GP の取り組みとして展開してきた「命の感動体験」「思春期ピアカウンセリング」「命の出前講座」「プレパパ・プレママセミナー」などの事業は、社会的にも大きな意義があり、今後日本各地の自治体で展開される次世代育成事業の模範となる取り組みであったと考える。

以上のような次世代育成事業の前進を支えたのは、住民パワーであり、学生の力であった。そして本事業の実現を確信し企画できたのは、本学教員が、住民と学生の力を知り、信頼していたことが、第一の要因であったと考える。今後とも、次世代育成事業を推進していくためには、地域住民と学生への信頼、そして両者がともに事業に参画する仕組みづくりが重要である。

最後に、次世代育成事業における今回の多様で多大な成果をもとに、今後も神戸市看護大学の特徴の一つとして、次世代育成に関する事業を継続・発展させていきたいと考えている。そのためには、本年度をもって終了する本学の現代 GP の取り組みに代わる各種外部資金の獲得や、地域・行政・学校・NPOなどとのさらなる連携・協働など、本事業を継続・発展させるための仕組みづくりが課題である。